

読む湘南

～少しだけためになる海の話～

vol.8
2012.7

そもそも
観光って
なんだ？



海がある。旨い魚が獲れて、マリンスポーツがある。古都もあれば島もある。観光資源に恵まれた、ここ湘南。なのになぜ、冬場の国道134号線はあんなにも寂しいのでしょうか。見落としている何かがあるはずなんです。——湘南ビジョン研究会代表 片山 清宏



私たち「湘南ビジョン研究会」は毎月1回、「湘南の海を考えるミニフォーラム」を開催しています。「読む湘南」ではフォーラムの内容を毎回フォローしていきます。

■湘南観光の現状と課題

新谷 茅ヶ崎市観光協会事務局長の新谷と申します。もともと商工会議所にいまして、3年前に商工会議所の会頭と観光協会の会長、茅ヶ崎市長の3人から「新谷君、茅ヶ崎の観光どう思う?」と聞かれ「全然ダメですよ」と言った
講師 茅ヶ崎市観光協会事務局長
新谷 雅之氏



ちょっとやってみないか」と言われまして、商工会議所から観光協会の事務局長に出向というような形で来ております。

観光というのは市外から人に来ていただいて、お金を落としてもらって茅ヶ崎が潤って、どんどん街が発展する。地元が儲からないといけないんです。湘南というのは非常に広くて、江の島を挟んで東側と西側、上品な湘南と下品な…下品じゃねえや、ちょっと田舎くさい西側、茅ヶ崎はどちらかというと田舎の方だと私は思っています。

鎌倉、藤沢、箱根、横浜などは外国人旅行者を誘致するインバウンドの発想があります。隣の藤沢は毎年台湾で誘客のイベントを行っています。台湾まで行って修学旅行のお客様を江の島に呼んでこようということをやっていますが、茅ヶ崎は行っておりません。なぜか。茅ヶ崎には実は大型バスが停まるところがないんです。

反対隣の平塚には七夕がありますし、寒川には寒川神社という立派な神社がありますよね。ですが茅ヶ崎には目立ったものがないので、大岡祭や湘南祭、浜降祭などのイベントで人を呼ぶという形の観光が中心になっています。

茅ヶ崎が大きく有名になったのは2000年にサザンオールスターズが茅ヶ崎の市民球場でライブをやった時です。それまでは「めがさき」とか呼ばれたりしましてね(笑)。あれ以降、茅ヶ崎というと、「ああ、サザンの」とか「湘南の」というイメージが定着したようです。

ところが茅ヶ崎の人というのは、まあ皆さんの中にも同じように考える方もいらっしゃるかもしれません、茅ヶ崎ではのんびりと過ごしたいんだ、人がたくさん来もらってガヤガヤされては困るんだと。仕事は東京に行って、帰ってきたら休みはのんびりしたいという人が非常に多くて、最近では浜降祭の音がうるさいという苦情や、花火大

会でも花火の音がうるさいという苦情が増えています。

まず地元の人、茅ヶ崎市民にもっと茅ヶ崎を好きになってもらう。好きになるとよそから来た人におせっかいに茅ヶ崎のいいことを言ってしまう。そうするとよそから来られた人は茅ヶ崎っていいね、と。そういう循環でリピーターが増えてくれるんじゃないかなと思っております。

■海を生かした湘南観光の新たな戦略

片山 ありがとうございます。新谷さん、珍しく今日はおとなしめで(笑)。本来もっと過激な方なので後半を楽しみにしたいと思います。では今から、これから湘南はこういうふうな観光をしていくべき、という前向きなディスカッションをしていきたいと思います。まず海津先生と高橋さん、自己紹介をお願いします。

海津 文教大学国際学部国際観光学科で2007年から教員を務めております、海津ゆりえと申します。エコツーリズムという自然を生かした、そして地域の宝を生かした観光、またそれによる地域の資源の保全や地域振興につながる

講師 文教大学国際学部准教授
海津ゆりえ氏



仕組み作りが専門です。
高橋 高橋十大でございます。湘南名物、江の島たこせんべいを始めた人間でございます。お茶屋の2代目に生まれまして、食べていけないので何とかお茶うけ菓子で食っていこうというところから苦肉の策で生まれたのが江の島たこせんべいです。商売人の立場から湘南を見たらどうなんだろうというお話しができたらいいかなと思います。

片山 海津先生も高橋さんもそれぞれ専門的な観光の取り組みをされています。お二人が思う湘南の観光のあり

湘南観光の魅力と新たな戦略

2012年6月28日

第8回テーマ

方をお話い
ただけます
か？

講師 湘南ちがさき屋十大 代表取締役

高橋 十大氏

海津 まずは「沿岸多都市間ネットワーク」としての活用ですね。スペインにコスタ・デル・ソルという有名なリゾート地があるので、ここにはスペインからボルトガルに向かって大きな道路が走っています。沿岸リゾートでありながら交通ネットワークのメインストリートになっていて、大型バスが数多く走っています。それを利用すればどこへでも行かれる、そういう地域になっています。同じことが国道134号線を利用してできないか、というのが一点。

次に居住者にとっての居心地の良さが来訪者にとっての楽しさになるのでは、という点です。学生にアンケートをとってみると、どんな時海に行く？という質問に「開放感を味わいたい時」「波の音を聞きたい時」といった答えが返ってきました。そして最も多かったのが「悩んでいる時」です。ではそういう時、海に何がほしいか。「座れる場所」「駐車場」「足を洗う場所」「バーベキューができる場所」…。どれも非常に日常的なものばかりなんですね。みなさん快適な場所、楽しい空間がほしいんです。ブラジルのリオデジャネイロは海岸周辺のお店のあちらこちらでライブをやっていて、ビール程度の金額で楽しめます。海岸に人が集まる構造ができているんですね。

最後に「海」それ自体を利用しなくても海岸に人が集まりやすい仕掛けがあるといいですね。これは「食べる」とか「買う」ということになると思います。

片山 高橋さん、いかがですか？

高橋 交通はやはり大きな課題ですね。私はお酒を飲むんでもよく鵠沼方面に行くのですが、どうしても行きにくい。行きは電車でもいいんですが、帰りはタクシーでとなると夜は3000円くらいかかるからです。行きもタクシーだったりしたら行きに3000円、飲み代2000円、帰りまた3000円って、もうとんでもないですよ(笑)。例えば辻堂の「おでんセンター」に行くにしても、海岸線に何か電車とか走っていれば一発で解決するんですけどね。江ノ島鎌倉に観光客がいっぱいいて、その人たちが電車で茅ヶ崎に流れてくるような形になればな、と。

片山 観光の目的は2つあると思います。1つは観光客に来てもらって稼ぎましょうということ。もう1つは市民に自分たちの街をより知ってもらって、自分たちの街を好きになってもらうこと。では産業としてより稼ぐためにはどうしたらよいかとなると、3つの課題があると思います。1つ目は夏場しか儲からない。2つ目は今お話をあった交通ですね。3つ目は新谷さんからあった観光客が来て盛り上るのはいいのだけれど、住民にとってはいい迷惑だということ。この3つがあると思います。一方、市民が自分たちの街を好きになるというところで

は、市民1人1人、あるいは企業の力を生かして、もっと手作り感のあるようなものができないかなと思いますので、その課題について話したいと思います。

まず通年確保ですね。夏場以外どうやってお客様に来てもらうか。切実な問題だと思います。高橋さん、商売をしている感覚として冬場はどうしているんでしょうか？

高橋 2月、6月、10月って茅ヶ崎は商売が厳しいんですよ。特に10月にカンフル剤になるような行事があるといいのかなと思います。昔は運動会があったりしたんですけど、なんか観光っていうものにペイするような出来事がないで弱いのかなと思います。11月はふれあい祭りやレインボーフェスティバルがあるのでなかなかいいんですけどね。10月は自分でも狙い目にして仕掛けでみるんですけど、すべて滑りますね。10月は苦しい。

片山 なにか単発なイベントに頼っているように見えてしまうんですが、もう少し根本的な解決策はないのでしょうか？

新谷 湘南祭などいろいろイベントを仕掛けではいるんですが、基本的には湘南祭で儲けようと思ってもらっては困るわけで、イベントにきてもらったお客様に、こんなにいいお店が茅ヶ崎にはあるんだと知ってもらってまた普段買い物に来ようと思ってもらうのが我々が考えているイベントなんです。

高橋 茅ヶ崎の人ってこれだけイベントをいっぱいやっているのでイベントが好きになっちゃったんですよね。でも観光っていうのは外貨を稼いでなんぼですから、茅ヶ崎の人たちだけが喜ぶような自己満足では意味がない。私自身反省しているのは、茅ヶ崎はイベントを美しくやりすぎていると思うんです。泥臭さがないんです。



茅ヶ崎、Tバー付近のボードウォーク。この辺りには座れる場所が点在している

よ。今、憧れて勉強させてもらっているのは大磯のイベントです。あそこにもう一度茅ヶ崎をリセットして戻したいなというぐらい、なにか愛があるんですよ。感覚的な話で私も説明しづらいんですけど。

片山 中途半端によその人を呼ぼうとしても、結局横浜や東京のイベントには負けちゃうから人を呼べない。逆に大磯はおそらく開き直ってローカル的な今までの伝統文化を生かしたお祭りをローカルのためだけにやる。実はその地域色が外から人を呼んできた、ということですね。

地域色重視という方法がある一方で湘南地域は海でつながっていますから、広域で連携することによって相乗効果で人を呼べるということがあると思います。そこで課題になるのが交通です。海津先生、これから湘南の交通についてお話をいただけますでしょうか？



海津 海岸域を1つの公共交通で行き来できないということが一番のネックかなと思います。今までの観光の流れは、自治体があって観光協会があつて自分のところの観光を考えるという発想できているので、それをやっている限り解決策は出てこない。まずはバスあたりから始めてみてはどうかと思います。

新谷 海上交通はどうでしょうか？134号線の渋滞を考えれば、すごいメリットがある、茅ヶ崎から船に乗って江の島にも行けるし。波の高さとか問題はあるでしょうけど。
高橋 江の島の橋のところから裏側の岩屋洞窟に行く渡し船がありますが、ああいう感覚で江の島から茅ヶ崎まで行く、これは各駅停車だから社堂にも寄る、そういうものがあつたらすごく楽ですよね。それが経営上うまくいかなければなりませんけども。

片山 次に3つ目、観光で儲ける商売に対し、海の近くで静かに暮らしたい住民がいます。最近住民からお祭りの音がうるさいと苦情が多いというお話がありましたが、住民に対しての観光について新谷さんお願ひします。

新谷 イベントをやると良いと言つてくださる方が多いんです。ですが警察や行政に苦情を寄せる方々は、結局イベント自体に反対の方たちなんですね。「うるさい、臭いがするとみんな言つてはいる」って、みんなは言つてないと思うんですけど…。もちろんそういう人を無視するわけではなくて、言つていいかわからないのですが、確かに浜降なんてひどくて平気で立ち小便したり、壊したりするんで苦情も仕方ない部分ではあります。それも事務局が対応するしかないので、お祭りが終わった後から電話がパンパン鳴って、「俺ん家はこんなことやられた」と。朝一番に行ってお昼もずっと謝つて、相手もお腹が空いて「いい加減帰れ」って言われるまでずっと謝っています。何か良いアイデアがあつたら教えていただきたいです。

片山 海津先生、この問題、どういった解決策があるかご意見があればお願ひします。

海津 どこにでもついてくる課題です。輪の外にいる人たちですね。ですが地域のイベントですから、外から来る人にとってはその方も当事者なんです。自分たちも担い手であるという体験をする住民がでてくると、自分にも『加害者』というか騒がしい人という意識を持ちます。その辺の視点を変えるなにかしらの仕掛けを作っていく、と言つるのは1つの方法かなと思います。

湘南の大動脈、国道134号線



市民を「街歩きガイド」にした長崎の例

片山 一步こちら側に入つていただくというのは確かに1つヒントなのかなと思います。それでは最後の論点、市民が自分たちの街の魅力を知つて好きになるという観光の大きな目的ですね。市民参加型というか、そういう面で何か良い方法、良い例はないでしょうか？

海津 6年ほど前に「長崎さるく博」というイベントがありました。長崎市自体は異人館などもあって観光としては人が来ていたのですが、それでも来訪者が減つてしまっていた。それと市民と観光が乖離してしまって、地域にとってメリットがないという状況を解消しようと市長がやつたイベントです。何をやつたかというと、街の中のことば市民が一番よく知つてゐるわけです。だから市の人たちが市を紹介するという形にしようと。市民をガイドにして、今や200人くらい市民ガイドがいるんですが、いろんな小さな通りとか、例えば茅ヶ崎だったらおせんべい屋さんといったところを資源にして、街を歩く。あるいは、おせんべい屋さんだったらそこに行って作り方を習う。そういう小さなプログラムをたくさん作つて、半年間の間にガイドブックを作つて、地図を作つて、市を歩く、学ぶ、それから通になるという3つのコンセプトでやりました。そうしたら長崎の津々浦々まで人が歩くようになって、それがイベントが終わつた今でもずっと続いてガイドの仕組みとガイドコースがどんどん拡大生産されているという仕掛けです。

片山 ありがとうございました。それでは会場からのご意見、ご質問を募りたいと思います。

参加者 近く相模縦貫道が開通する中で、夏は良しとしても、それ以外の春、秋、冬に観光として茅ヶ崎をどう売り出していくのかお聞かせいただければと思います。

新谷 実は今、観光協会と会議所で思案中なんですが、

葉山から大磯まで一体でやらなきや道の駅のような、我々は「なぎさの駅」と言つてゐるんですが、134号沿いにそういう施設を作る。圏央道ができると山梨とかから車でバーッと来られるようになって、長野からも人を呼ぶような形になるんですけども、それがドーンとぶつかるのが茅ヶ崎の柳島の辺りです。それから平塚の方に行くのか、江の島の方に行くのか、拠点が茅ヶ崎になります。ただの拠点で終わるのではなく、そこに車を止めてレンタサイクルなどで市内を経由してもらうことができないかな、と。湘南の窓口としての茅ヶ崎、湘南のどんなところが良いかといった情報も発信するし、茅ヶ崎のいろんなものも販売するし、なつかつ茅ヶ崎を回遊してもらおうと考えています。

参加者 皆さんいろいろなご意見が出て大変有益なご意見



もあるんですが、根幹的に湘南に対して深い思いが見えない。一番欠落しているのが文化です。文化的な発想が今日の中にはないんです。その都市々々には文化があるんです。海上交通もいいですけれど、もっと身近に貴重な観光資源があるのでないですか？

高橋 茅ヶ崎にも別荘文化っていうものがあって、そこから派生した世界が後からサーフィン文化にもなったりしています。音楽でも湘南サウンドの文化になったりしています。文化を蔑ろにしているのではなくて、どっぷり入ってしまっていると気付きにくいという部分はあると思います。

参加者 茅ヶ崎だけを考えても、湘南というブランドを活かしきれないと思います。シラスブームで江の島界隈、世界遺産の登録の関係で鎌倉は賑わっていますが、一過性だと思っています。シラスが取れなくなれば来なくなるでしょうし。そうではなくて10年20年後を考えた時に横軸、例えば逗子・葉山から大磯までの横軸を有機的に結合させることによって、湘南という魅力が非常に高まるんじゃないでしょうか。

私はライフセービングの仕事をしているのですが、オーストラリア・ゴールドコーストのライフセーバーは観光客に記念撮影を求められたら仕事中でも応じます。なぜかというと、ゴールドコーストは観光都市だ、観光客が来るから自分たちは雇われている。だから良い思い出を作って帰っていってもらいたい。そう考えているからです。

長崎の例を海津さんが仰っていましたが、市民が案内をする。それはおそらく、納得をしてというか前向きに

迎え入れて説明をしている。今サーファーがビーチにいっぽうろうろしているが、サーファーに聞けば地元の美味しいお店は喜んで教えてくれると思います。そういう面で市民が納得する観光政策をやっていけば、市民も一緒になって楽しめる。まさ

サーファーが美味しいお店を教えてくれる風土を作ろう



江の島～鵠沼エリアは比較的駐車施設が充実している

しくそれが湘南文化かなと思います。海外からも人を引っ張ってくる力があるはずなんです。

波、風、景観、それと人。湘南にはビギナーの体験にふさわしい膝波が年間を通じてあります。ウィンドサーフィン、ヨット向きの風も吹いています。それを教える人が湘南にはいたるところにいます。そういう点を結び付けていくと湘南というのは国際的な観光都市になるのではないかと思っております。

片山 ありがとうございます。それでは、最後に講師にまとめの言葉をいただきたいと思います。

高橋 「粹」なことを観光協会としても、また商売人としても茅ヶ崎から発信していかなければと思っています。粹ってなんだって難しいのですが、茅ヶ崎らしいものを発信することが湘南の中の個性、最終的には横のつながりが広がっていく礎になるのではないかと思っております。

海津 ご指摘をいただいたように、これはオール湘南で考えていかないといけないと思います。地域らしさとか、地域の誇り、地域の文化を外の人たちに伝えていく。それが交流を生んでいくということなんですね。茅ヶ崎どっぷりのお二方から発信のことを仰っていましたが、これは湘南の各地がそれぞれ発信しながら、何ができるかということを考えていくべきですし、そこに私も係わることができればと思っております。

新谷 ぜひ茅ヶ崎を好きになってください。ありがとうございました。

片山 私の感想としては、地域が持っている魅力、文化、伝統というのをそれぞれの地域でもっと深めていくこと。それをオール湘南で横につなげていくというのがまだまだできていないというのが確認できました。自分の街の魅力を知り、湘南全体でつなげ合って総合力で外から人に来てもらうというのが重要なのかなと思います。

湘南ビジョン研究会では「湘南都市構想2022」として10年後の地域のあり方を考えています。この中で湘南の連携した観光のあり方を研究、提言していきたいと思っております。今後もご意見、ご指導をいただければと思います。

夏ほどの賑わいではないものの、冬でも観光客を集め江の島は湘南の“優良コンテンツ”



第10回湘南ミニフォーラムのご案内

テーマ「湘南の交通政策と都市づくり」

▼日 時 8月22日(水) 19:00~20:50

▼場 所 藤沢産業センター6階 研修室1

車、電車、バス、自転車。一長一短。

第8回ミニフォーラムでも議題にのぼった湘南の交通事情。夏は渋滞するし、東海道線は海から離れているし、バスは市をまたがないし…。実は不満ばかり？葉山か

◆講師

近藤 修宏氏(神奈川県小田原土木センター道路都市課長)
中沢 俊之氏(江ノ島電鉄株式会社観光企画部課長)
平尾 博氏(株式会社ペダル代表取締役)

ら大磯までずっと海沿いを走るバスがあったら最高！

そんなあなたの思い、疑問をぶつけてみませんか？湘南ビジョン研究会は、このミニフォーラムへの参加者を募集しています。7ページ記載の連絡先、またはホームページ(www.shonan-vision.org)からお申し込み下さい。



World Oceans Day japan

"The Next Wave For Change!"

～世界と海がひとつになる日～

ワールドオーシャンズデイ 2012

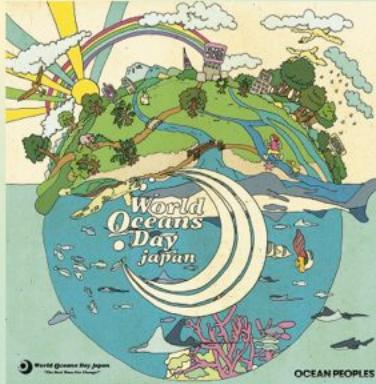
6月9日(土)

新江ノ島水族館「湘南お祭り広場」ほか

世界70カ国以上で行われる海のビッグイベント、ワールドオーシャンズデイ。今年、日本初の開催地にここ湘南が選ばれました。海について考えるきっかけになれば、と願います。



あいにくの雨のため、体験コーナーの多くは屋根の下。それでもキッズは大はしゃぎしていました。



◆ワールドオーシャンズデイとは 1992年、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた地球サミットで、6月8日を海の重要性を認識する日として提案された。2009年、国連が正式に指定。

湘南学園小学校の生徒たちによるアート作品「未来に残したい海の恵み」。ソーラン節も披露してくれました。



アーティスト「KAZ」によるライブ・ペインティングも



トークショー：パネリスト（左から）
岡野龍介氏（ビーチクリーンウォーカー）
鈴木一也氏（オーシャンアスリート）
小西隆介氏（カヤッククラブ10,000kmパドラー代表）
片山清宏（湘南ビジョン研究会代表）



翌10日には腰越でダイバーが海底清掃を行いました。

J-WAVEの協力の下、鹿児島のデュオ・カサリンチュニカ、シングル「あの空の向こうがわへ」が東芝エレベーター「東京スカイツリー開業篇」に起用されたジャンクフジヤマニカがライブ。ご存じサンオールスターズの関口和之さんも登場ニカ



粘土でのイルカづくりに子供は大喜び。湘南ビジョン研究会のブースに、大好評だったマッサージブース



湘南ビジョン研究会は特別協力団体として、ブースの出展・トークショーの出演・海中清掃で協力しました。

イベントを終えて

武田真由美

主催:NPO法人ワールドオーシャンズデイ代表理事



日本でも海について考えると難しい問題がたくさんありますが、WODを開催することで少しづつ良い変化が起こればと思っています。「世界中の海はつながっている。だから世界中の人たちで海のことを考えよう」。リオで6月8日を「ワールドオーシャンズデイ」に、と提案されて20年目の今年、リオで再び地球サミットが行われるのに合わせて日本でもWODを開催しよう！そう思って企画しました。



今回得た貴重なつ

ながりを大切に、アクションを

起こすことで新たなつながりをつくっていきたいと思っています。今後もいろいろな

イベントを通じて、海を感じ、海とつながるきっかけを来場者に提供していきます。

私がこのイベントをやろうと思ったのは、2010年に香港で開催されたワールドオーシャンズデイ(WOD)に参加したことがきっかけでした。この時は持続可能なシーフードの消費についてのシンポジウムやフカヒレをテーマにした映画の上映などが行われ、世界中からアクティビストたちが集いました。

イベント当日はトークショーやライブに親子で楽しめるワークショップ、海底清掃や海のアクティビティが体感できるコーナーなど盛りだくさんの企画が集まりました。海の環境について考えるのは、まず海を感じて海に触れること。海について考えるきっかけにしてほしい。そんな思いがあふれていたと思います。参加者からも「様々な分野の話や演奏が聞けてとても良かった」「海とつながりのある企業や団体の思いを知ることができた」「今後も続けてほしい」といったうれしい感想が届いています。

ながりを大切に、アクションを

起こすことで新たなつながりをつくっていきたいと思っています。今後もいろいろな

イベントを通じて、海を感じ、海とつながるきっかけを来場者に提供していきます。

例えば「サイクリングロード＝津波対策」という視点

私たちが目指す理想のまちづくり「湘南都市構想2022」

「湘南ビジョン研究会」は、10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」を地域の住民とともに策定しています。

税金に頼らず運営する「渚の交番」

第4回策定会議を7月11日(水)に開催し、約20人のメンバーにご参加いただきました。前半は4つの分科会（「教育・スポーツ」「観光・産業」「医療・福祉」「防災・交通」）で議論している政策案（プロジェクト）を発表する「中間発表会」を行い、後半は分科会ごとに分かれて「ワールドカフェ方式」で、他の分科会メンバーを交えて議論しました。

例えば、「防災・交通分科会」では、政策案の1つとして「サイクリング道路と『渚の交番』拠点の整備」を議論しました。2022年までに葉山から二宮までの海岸線

のサイクリングロードを嵩(かさ)上げして再整備することで、津波・防砂対策、交通事故防止を図るとともに主要海浜に「渚の交番」を整備し、監視所、観光案内所、レンタサイクル、救護室、更衣シャワー、レストランなどの機能を備えるというものです。議論の中では、税金に頼らず施設を運営する収益モデルのあり方を検討しました。

現在、4つの分科会で合計41本の政策案が出ています。来年1月の完成に向け、着実に歩み続けたいと思います。

第5回会議は8月8日(水)19時から藤沢市市民活動推進センター会議室Aで行います。9月には湘南地域の住民100人と「未来の湘南のまちづくり」について意見交換する「100人ワールドカフェ」も予定しています。みんなで自由に話し合いながらつくっていきますので、参加や見学を希望される方は是非ご連絡ください。

連絡先 shonan_vision@hotmail.co.jp 担当：片山

あぶりや 宵の口

with TEA CALL

イチオシは魚串。理由は簡単。いっぱいあるから(笑)

「紅茶1杯売って500円。それじゃ儲かんな」という話ですよ。そんなこんなで『大当たり、狙って宵の口をつくりました』と話すのはオーナーの土田文夫さん(41)。商売至上主義?と思いつかず、土田さんはとにかく楽しいことが好き。「宵の口」では通常の宴会はもちろん、手巻き寿司パーティからなんと流しそうめんまでできるのだ。「やるからには本格的にやりたいじゃない?だからちゃんと竹切ってくるんですよ。今年は竹第1号が水分多すぎて変形しちゃったんで、ただいま第2号を鋭意乾燥中(笑)」

確かに盛り上がりそう、ではある。ただ、炭火焼きとは全然関係がない。

「そっちだってちゃんと焼いてますよ。イチオシは魚串。理由は簡単。焼き鳥屋さんはいっぱいあるから(笑)。同じもんで勝負しても仕方ねーだろーって」

魚串とは新鮮な魚介を食べやすいサイズで串に刺し、塩や醤油はもちろん、柚子胡椒やタルタル、バルサミコなどバリエーション豊かに味付けしたもので、ほぼ全てのお客さんがオーダーする。人気の秘密はなんと言っても食べやすさ。友人や同僚と焼き魚を頼むと誰がほぐし、どう取り分けるかは常に悩みどころだが、魚串ならなんの問題もない。珍しいところでは「なまず串」や富山の「幻魚(げんげ)」、北海道の「氷下魚(こまい)」なども食べられる。いずれも日本酒や焼酎に



魚串は1本150円。写真の種盛り合わせは1890円

オーナーの土田さん(左)と店長の菊島良さん(32)。石畳が敷かれた入り口。大人数のパーティーは屋根裏部屋風の3階がいい

は最高の肴だ。

また全国のご当地グルメも豊富で、例えば栃尾(新潟)の油揚げや宇和島(愛媛)のじゃこ天。「俺の故郷は新潟で、嫁さんの実家が愛媛だからね。あとは徳島のフィッシュカツとか大分のぎょろつけなんかも置いてますよ」。一方でお店の入り口に地産地消の提灯があることからも分かる通り、地元の食材にも力を入れている。生シラスは腰越から朝獲れを、野菜は鎌倉野菜を中心に神奈川県産を仕入れているという。

「?」なのはお店の内装だ。和食のお店にはやや不釣り合いなバーカウンター。「NYスタイルっていうか、ウェディングバーですよ。席に空きがないとき、ちょっと

1杯飲んで待ってもらう的な。まあ満席になんてそうそうならないんだけど

実はコレ、前述の「TEA CALL」が昨年、元の店舗を閉めて「宵の口」の一角に『お引っ越し』してきたのだ。これにより「宵の口」でも各種カクテルや「TEA CALL」の看板メニュー「アイスロイヤルミルクティー(700円)」が注文可能になった。

「紅茶が200円の値上げ? 駅前料金だよ(笑)」
料理やその他のお酒は適正価格なのでご安心を!

◆営業時間 16:00~24:00 不定休
鎌倉市大船1-8-5 地球堂ビル2階
TEL 0467-44-3768

※大船駅東口を出て駅前の通りを渡って左。数十歩先の右側。1階はヘアカットのQB HOUSE。縞ぼけなどの干物も全国から取り寄せている。焼き物は全て備長炭使用。旬にこだわった刺身は日替わりメニューから。コースは2時間飲み放題で平日限定女子会プランが3000円~。2階30席、3階40席。貸し切り可。お子様連れも大歓迎です。

